

RouteMagic

RouteMagic Controller

RMC-MP200 / MP1200

リリースノート

- Version 3.0.1 -

はじめに

本書の目的

- 本書は、RouteMagic Controller(以下 RMC と記述)上で稼動するソフトウェア・バージョン 3.0.1 に関して、バージョン 2.2.0 との機能的な相違点、および RMC 設置・運用上の留意事項などを中心に記述しています。RouteMagic 製品の仕様ならびに操作方法全般に関しては、「RouteMagic Controller 取扱説明書」「RouteMagic Controller MP1200 / MP200 ユーザーズ・ガイド Version 3.0」、および「RouteMagic Controller クイックリファレンス Version 3.0」をご参照ください。

本リリースの動作環境

RMC ソフトウェア Version3.0.1 は、RMC MP1200 および MP200 (Model 2) ハードウェア上で動作します。RMC Model 1 には未対応ですのでご注意ください。

RMS を利用する場合は、RMS (RouteMagic Server) Version 2.1 以上の環境が必要となります。

本書の対象読者

本書は、次の方を対象に記述されています。

- RMC のコマンドおよび操作性を理解されている方
- ネットワーク環境の設定に関して基礎的な知識のある方

関連ドキュメント

RMC には、本書の他に、次のドキュメントが用意されています。

- **RouteMagic Controller MP1200 / MP200 取扱説明書**
RMC の設置とネットワーク機器への接続に必要な情報を記載した、製品添付の説明書です。MP1200 版と MP200 版があります。
- **RouteMagic Controller クイックリファレンス**
RMC が提供するコマンドの機能を記述したハンドブックです。
- **RouteMagic Controller MP1200 / MP200 ユーザーズ・ガイド**
RMC をご利用いただくために必要な作業を中心に、RMC が提供する機能とその利用方法を説明しています。
- **RMC セットアップサーバ構築・運用ガイド**
多数の RMC を設置される場合の、一括セットアップ／バージョンアップに関して記述しています。

目次

1.	ソフトウェア Version 3.0 の変更点	1
1. 1	シリアルポートのログ保存機能を追加	1
1. 2	copy コマンドでのシリアルポートログ / XMODEM ファイル転送に対応	1
1. 3	コンソールサーバ／ターミナルサーバ機能の強化	2
1. 4	ping を使った監視対象装置の生存確認機能を追加	2
1. 5	監視対象装置の接続テストのための target-test コマンドを追加	2
1. 6	モデムを使った遠隔監視に有効なオプション設定を追加	2
1. 7	upgrade コマンドでの XMODEM/ZMODEM ファイル転送に対応	3
1. 8	設定やログ表示時のページャの高機能化	3
1. 9	DHCP のタイムアウト指定に対応	3
1. 10	フィルタに関する仕様変更	4
1. 11	その他の仕様変更	4
1. 12	不具合の修正	4
1. 13	Version 3.0 における制限事項	4
2.	Version 3.0.1 へのアップグレード	6
3.	システム稼働環境	7
3. 1	シリアル端末／モデムからのログイン	7
3. 2	ネットワーク経由でのログイン	7
3. 3	動作確認済みモデム／ISDN ターミナルアダプタ	7

1. ソフトウェア Version 3.0 の変更点

RMC ソフトウェア Version3.0 では、従来の Version2.2 に対して下記の変更が行われています。なお、現在 Version2.0、Version2.1 をお使いの方は、Version2.1、Version2.2 においても大きな変更が行われていますので、そちらのリリースノートも併せて機能変更点をご確認ください。

旧ソフトウェアで稼働中の RMC を Version3.0 にアップグレードされる場合は購入元の代理店にご連絡ください。現在稼働している RMC のソフトウェアバージョンは、`show version` コマンドにより確認できます。

➔ 「2. Version 3.0.1 へのアップグレード」参照

1.1 シリアルポートのログ保存機能を追加

ログの最大記録サイズをポートあたり 200KB から 300KB に拡大されました。

◆ write log

`write log` でシリアルポートのログを不揮発性メモリに保存します。

なお、`reload`、`shutdown` コマンド実行時にも保存が行われます(ファンクションスイッチでの同等動作を含みます)。

`reload`、`shutdown` 時にログを保存したくない場合は、"-f"オプションをつけてください。

◆ show log comN

保存したログは、通常のシリアルポートのログとして取り扱われます。従って、再起動後に"`show log comN`"を実行すると、保存したログが表示されます。

また、"`copy log:comN xmodem`"を実行することでログの内容を端末側で XMODEM ファイル受信することも可能です。(詳細は「1.2 copy コマンドでのシリアルポートログ / XMODEM ファイル転送に対応」参照)

◆ clear log comN

"`clear log comN`" コマンドで、指定したシリアルポートのログの消去を行います。

また、`write erase`、`upgrade` コマンド実行時にもログ内容を消去します。

1.2 copy コマンドでのシリアルポートログ / XMODEM ファイル転送に対応

◆ copy {log:comN|running-config|startup-config|terminal|tftp|xmodem [-c]}

{running-config|startup-config|terminal|tftp|xmodem [-c]}

xmodem 指定時には"-c"オプションをつけることで、CRC チェックが有効になります。

1.3 コンソールサーバ/ターミナルサーバ機能の強化

- ポート指定 telnet によるシリアルポートとの直接接続機能を追加

RMC に対してポートを指定して telnet 接続することで、RMC の COM ポートに接続されている機器との間で直接接続が可能です。

```
set connect-port {port}
```

※ 上記設定後、set access-list allow connect-port <許可アドレス> を実行して、ポートのアクセス権限を設定する必要があります。

- telnet, ssh クライアント機能を追加

```
telnet {hostname} [port]
```

```
ssh [-2v] {[user@]hostname} [port]set connect-port {port}
```

ssh の場合、"-2"オプションを指定すると SSH2 プロトコルを使用します。"-v" オプションをつけると、接続状況を詳細表示します。

なお、認証方式はパスワード認証だけで、公開鍵認証には対応していません。

※ 本機能はデフォルトでは無効です。有効にするには set options client =ssh,telnet を実行してください。

1.4 ping を使った監視対象装置の生存確認機能を追加

- ◆ target-ping-check [no] {address} [interval [count [min]]]

COM ポート経由での監視対象装置の生存確認と組み合わせて使用する形で ping での生存確認に対応しました。

1.5 監視対象装置の接続テストのための target-test コマンドを追加

- ◆ target-test {comN} [target-check|target-ping-check|network-info]

指定したポートの機器に対して、実際に死活監視と機器情報取得を行い結果をメールで送信します。

1.6 モデムを使った遠隔監視に有効なオプション設定を追加

- メール送信を PPP 経由に固定

```
set options pppmail
```

- PPP 接続リトライ回数/間隔の設定

```
set options pppretry={retrycount},{[interval]}
```

- PPP 発信間隔の設定

```
set options pppinterval={interval}
```

1.7 upgrade コマンドでの XMODEM/ZMODEM ファイル転送に対応

◆ upgrade {tftp|xmodem [-c]|zmodem}

XMODEM 指定時に"-c"オプションをつけると、CRC チェックが有効になります。

1.8 設定やログ表示時のページャーの高機能化

バックスクロールや文字列検索が可能になりました。

表示中に使用できるコマンドは以下の通りです。

キー	機能
g, <	行数を入力後このコマンドで指定された行へジャンプ。 行数入力がない場合はファイルの先頭へジャンプ。
G, >	行数を入力後このコマンドで指定された行へジャンプ。 行数入力がない場合はファイルの最後行へジャンプ。
p	指定パーセント(0~100)位置にジャンプ。 ただしバイト数ではなく、行数で計算。
b, Ctrl-b	前のページに戻る。
u, Ctrl-u	前の半ページに戻る。
k, Ctrl-k, y, Ctrl-y, Ctrl-p	前の行に戻る。
j, Ctrl-j, e, Ctrl-e, Ctrl-n, CR	次の行に進む。
d, Ctrl-d	次の半ページに進む。
f, Ctrl-f, Ctrl-v, SP	次のページに進む。
/<string>	文字列の前方検索
?<string>	文字列の後方検索
n	前方検索を繰り返す。
N	後方検索を繰り返す。
q, Q	表示の終了

1.9 DHCP のタイムアウト指定に対応

◆ set [no] dhcp [timeout]

指定は秒単位。デフォルトは 10 秒。

1. 10 フィルタに関する仕様変更

- 以下の場合、該当 COM ポートに対するメッセージのフィルタリング処理が、一時的に停止されるようになりました。
 - connect コマンドによる装置の手動操作中
 - スクリプトの実行中(RMC が装置にコマンドを投入中)

1. 11 その他の仕様変更

- telnet ログイン時にも、set public-key, set ssh-public-key の実行を可能にしました。
- connect comN コマンドを実行しても、set comN terminal の設定が保存されるようになりました。
- show tech-support でフィルタ・スクリプトの設定も表示するように変更しました。
- RARP サービスだけでなく DHCP サービスを提供するサーバでも、RMC の一括アップグレード・セットアップサーバとして利用することが可能になりました。

1. 12 不具合の修正

RMC Version 3.0.1 で対応されている問題点は、以下のとおりです。

1. show tech-support で set snmp-community, set snmp-traps の内容がマスクされていない
2. set no ssh-public-key で SSH 公開鍵を削除できない
3. フィルタ・スクリプト中で date コマンドを実行すると、タイムゾーンの設定が反映されていない時刻が表示される
4. RMC への TELNET ログインの際にネームサーバとの通信が出来ない状態では set hosts に接続元ホストを登録していてもログインに時間がかかる

1. 13 Version 3.0 における制限事項

RMC Version 3.0 では、以下のような機能的制限事項がありますのでご注意ください。

RMC-MP1200/200 共通

- set target-type custom されているポートに対して、script-test コマンドを実行した場合、その実行結果は show log comN には記録されません。また、set spy が設定されていても、spy の対象にはなりません。
- 通常モードで特権モード専用コマンドを実行した場合、V2.0 以前は "can't execute on normal mode." と表示されていましたが、V2.1 からは "command not found." と表示されます。
- Ver2.1 以降からのアップグレード手段は tftp のみとなります。Windows 版のアップデータは提供していません。

- DNS ではなく hosts データベースに対して登録されているドメイン宛にメールを送信することができません。この場合、メールのリレーホストを経由するか、IP アドレス直接指定でのメール送信を行ってください。
- USB-シリアルコンバータを使用して、RMC の COM ポートにログインしている場合、コンソールへの大量のテキストのペースト(貼り付け)が正常に動作しない場合があります。
- RMS から送信された定石コマンドメールの実行の際、実行時間が 20 分以上かかる場合はタイムアウトエラーとなります。
- パスワードが設定されていないアカウントに対しては、SSH の認証がスキップされます。たとえば SSH 公開鍵認証以外でのログインができない設定にしている場合でも、通常のパスワード設定をお願いします。
- RMC の telnet コマンド実行時に、ログイン先で通常のログアウト処理をした場合でも、RMC 側でのコマンド終了ステータスは"error!"扱いになります。
- set options pppmail でメールを最初から PPP 経由で送信する設定にした場合以下の制限があります。
 - ・ PPP 経由での送信に失敗したメールの再送信は、別の新規メールが発生した段階で行われます。
 - ・ PPP 経由での POP メール取得には未対応です。

RMC-MP200

- set exec (COM2 をローカルコンソールとして設定)、または set modem (COM2 をモデム接続に設定) が行われている間は、当該ポートに対する spy の設定は無効になります。
spy の設定を有効にする場合は、set no exec / modem を実行し、ローカルコンソール/モデム接続の状態を解除してください。

RMC-MP1200

- DISPLAY ポートへの表示は、常に英語表示となります。
- ETH1 ポートはメンテナンス用ポートとなるため、以下の機能制限があります。
 - － 同一セグメント上のノードとの通信のみが可能です。
 - － set dhcp により、DHCP サーバからアドレスを取得することはできません。
 - － set address において、デフォルトゲートウェイを指定することはできません。
- IP アドレスの自動設定機能はサポートされていません。

2. Version 3.0.1 へのアップグレード

RMC ソフトウェア Version3.0.1 は、RMC-MP1200 および MP200 (Model 2) ハードウェア上で稼働します。

Version3.0 より前のバージョンのRMC を Version3.0.1 にアップグレードする際は、購入元の代理店にご相談ください。

※アップグレードにおけるご注意

- アップグレード時には以前のバージョンの設定が引き継がれますが、アップグレードの前に copy running-config terminal で表示される設定を別途記録しておくことをお奨めします。
- RMC ソフトウェア Version3.0.1 は、Model1 ハードウェアには対応していません。
- RMS(RouteMagic Server)をご利用になる場合、RMS Version3.0 以上が必要になります。

3. システム稼働環境

3.1 シリアル端末／モデムからのログイン

弊社開発の SSH2 対応ターミナルソフト“Guevara”（推奨）、Window 標準添付のハイパーターミナル、フリーソフトの Tera Term Pro などのターミナルソフトが必要です。また、Local Echo は OFF にしてください。

“Guevara のホームページ:”
<http://www.routrek.co.jp/product/guevara.html>

“Tera Term のホームページ:”
<http://hp.vector.co.jp/authors/VA002416/>

Unix 系 OS の場合は、tip, minicom などのターミナルソフトをご使用下さい。

3.2 ネットワーク経由でのログイン

SSH1 または SSH2 プロトコル対応の ssh (Secure SHell)、又は telnet でログインします。Local Echo は OFF にしてください。

Windows の場合、弊社開発の SSH2 対応ターミナルソフト“Guevara”（推奨）、Tera Term Pro + SSH Extension や PuTTY が SSH プロトコルに対応しています。

3.3 動作確認済みモデム／ISDN ターミナルアダプタ

RMC での動作を確認したモデムおよび ISDN ターミナルアダプタは以下の通りです。表中の“指定するモデム名”は、**set modem** コマンド実行時に必要な引数です。

■ アナログモデム

モデム機種名	指定するモデム名
株式会社アイ・オー・データ機器 DFML-560E	指定不要 (generic)
アイワ株式会社 PV-BF5606HM	指定不要 (generic)
株式会社 メルコ IGM-B56KS	指定不要 (generic)

■ ISDN ターミナルアダプタ

モデム機種名	指定するモデム名
日本電気株式会社 Aterm IT42	aterm
日本電気株式会社 Aterm ITX62	aterm

製品に関するサポートのご案内

製品に関するお問い合わせやテクニカルサポートについては、下記の弊社サポートページをご覧ください。

<http://www.routrek.co.jp/support/>

また、製品に関する最新情報やマニュアルも上記ページからダウンロードすることができますのでご参照ください。

Copyright©2003 株式会社 ルートレック・ネットワークス All rights reserved.
このマニュアルの著作権は、株式会社 ルートレック・ネットワークスが所有しています。
このマニュアルの一部または全部を無断で使用、あるいは複製することはできません。
このマニュアルの内容は、予告なく変更されることがあります。

商標について

ルートレック・ネットワークスのロゴおよびRouteMagicは、株式会社 ルートレック・ネットワークスの登録商標です。
本書に記載されている製品名等の固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

ROUTREK
NETWORKS

株式会社ルートレック・ネットワークス
〒213-0011 神奈川県川崎市高津区久本3-5-7 ニッセイ新溝ノロビル
Tel. 044-829-4361 Fax. 044-829-4362